

	みどり笑顔さろん協働清掃		鴨居駅周辺での清掃活動。月1回～悪天候等による中止も多いので、実回数は下回る。(はっきりとした記録が残っていないので、参加者等は非掲載)
	9月金沢文庫芸術祭	参加者29人 (内小学生6人)	芸術祭プログラム中のゴミの処理は全て(ゴミ拾い、分別、回収etc)担当。会場となった海の公園のビーチクリーニング等。運営全般のボランティアの一員として、当団体が参加。 回収に使用したゴミ袋の数 14袋
	12月ひかりのプロムナード (大岡川アートプロジェクト)		ゴミ処理に関わる全ての業務を担当。(分別呼びかけ、分別処理、回収等)
令和元年度	月4回4箇所定期清掃	10月までの参加者延べ490人 (内小学生215人) 杉田29人 井土ヶ谷171人 磯子24人 蒔田266人	井土ヶ谷地区、蒔田地区、杉田地区、磯子地区 10月までの活動回数合計20回 使用したゴミ袋の数 234袋
	みどり笑顔さろん協働清掃		鴨居駅周辺での清掃活動(月1回～悪天候等による中止も多いので、実回数は下回る。はっきりとした記録が残っていないので、参加者等は非掲載)
	4月 クリーンウォーク【歩こう話そう TALK & WALK in Yokohama】	105人 (内小学生26人)	回収したゴミを入れた袋の数 14袋 (内容については下記「他の市民団体との関わり」に記載)
	9月金沢文庫芸術祭	参加者60人 (内小学生14人)	サンドアート作りに団体として参加したほか、会場となった海の公園のビーチクリーニング、3箇所に接地したゴミステーションでの分別の呼びかけ等を担当。(使用したゴミ袋36)
	11月W杯決勝戦直前!「ゴミ袋でトライ!プロジェクト」in横浜	参加者37人 (内小学生8人)	新横浜駅周辺での清掃活動。ラグビーW杯決勝直前に特別開催。お酒の空き缶とペットボトルを中心に飲み物のゴミや、おつまみなどのゴミなど21袋を収集。

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
自治会・町内会との関わり	・地元子供会と連携	地元町内会役員の方が声をかけていただき、清掃活動に子供たちが参加している。

<p>学校との 関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各キッズクラブとの連携 ・養護学校との連携 	<p>井土ヶ谷小学校、日枝小学校、蒔田小学校の各キッズクラブの指導員と児童に参加していただいている。</p> <p>横浜市内の養護学校教員がグリーンボードのサブリーダーであり、生徒も参加している。</p>
<p>他の市民 団体との 関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人海の森・山の森事務局との連携 ABA 公費化を目指す親の会 ・NPO 法人笑顔（みどり笑顔サロン）との連携 	<p>大岡川から横浜港（東京湾）にプラスチックゴミを流出させないよう、NPO 法人海の森・山の森事務局との協働開催で「大岡川 PGT（P プラスチック G ゴミ T 獲ったどお）大作戦・井土ヶ谷バージョン」を実施している。</p> <p>自閉症啓発デーとなる 4/2(火)、団体主催のクリーンウォーク「歩こう話そう TALK & WALK in Yokohama」に参加。清掃ボランティア団体として、共同活動。</p> <p>団体の清掃活動立ち上げに協力。その後、月一回(天候による中止も多いので、実質 2 ヶ月に 1 回程度)の清掃活動を協働で運営。</p>
<p>企業等との 関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元飲食店とのお互いの利益となる取り組み ・磯子タウンマネジメント倶楽部との連携 	<p>地元飲食店さんたち(4 店舗)から、グリーンボードの活動時間と仕込みの時間が重なってしまうため直接の参加は無理だが、何か協力できないかとの申し入れがあった。そこで活動参加者には来店の際に特典を付けてもらうといった協力をして頂いている。(大盛り無料、ワンドリンクサービス等)</p> <p>磯子タウンマネジメント倶楽部とは、ブリリアシティ横浜磯子の住民ならびに周辺住民等のコミュニティ活動を広げる、マンション管理組合の下部組織。参加者の拡大と若返りの目的で、グリーンボードとのコラボの申し入れがあり、現在も月一回の定期清掃活動として継続中。</p>
<p>行政との 関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への広報 ・実際の活動に対する不可欠な協力 	<p>磯子区役所 7 階(いそご区民活動支援センター)の情報コーナーに活動予定と参加者募集の告知を掲示してもらっている。</p> <p>ハマロードサポーターに団体として参加することにより、南・磯子土木事務所には、活動後のゴミを所定の場所(新杉田駅、蒔田公園)に回収に来てもらっている。</p>
<p>その他、 環境以外 の分野と の関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・磯子区社会福祉協議会との連携 ・引きこもりの支援団体との連携 	<p>区社協に参加しているボランティアの方々を対象に、各ゴミ拾いへの参加を呼びかけている。</p> <p>ハートフルみなみ(引きこもり支援)当事者を引率して清掃活動にも参加</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ひかりのプロムナード ・金沢芸術祭 ・W杯決勝戦直前！ 「ごみ袋でトライ！プロジェクト」 in 横浜 	<p>「大岡川アートプロジェクト」の一環として蒔田公園で行われた「ひかりのプロムナード」会場内のゴミの分別など、運営ボランティアをグリーンバードで担当</p> <p>芸術祭プログラム中のゴミの処理は全て担当。</p> <p>ラグビーイベント用に限定製作したビブスと、袋の上下を縛るとラグビーボールになるごみ袋を使用。活動終了後のパブリックビューイング参加。「ノーサイドの精神」に則り、一緒に街をキレイにした仲間を称え合った。</p>
--	---	--

4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

※個人の方は、活動を始めたきっかけについて記入してください。

地域活動を積極的に展開したいと思い、その「つながるきっかけ、つながり作りをするきっかけ」を探していた。それも、皆、どんな人であっても、平等に参加できる形のもの。(例えば、障害を持っている人たちも参加できるもの。)

なんのスキルも必要とせず、そのことで参加者を選ばず、縛らない。持ち物さえ(こちらが用意するので)不要。「そこに行けばいいだけ」なので、本当に誰でも参加できる。そういう形の「ゴミ拾い」ならそれらが可能である。

そんな折りに、リーダーが川崎チームリーダーと友誼があった縁で、グリーンバード本部から声をかけて貰い、活動開始となった。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

ゴミを拾う量が減ってきている(参加者の特に多い井土ヶ谷地区と蒔田地区の合計で見ると、h30→R元年で一回あたりの参加者平均は63人→62人とほぼ変化がないのに対して、一回あたりのゴミの量は38→28袋と減っている)。まず街の美化に貢献できている。毎月皆、緑のビブス着て旗を掲げてゴミを拾っている姿を地域の人たちに見せていることにより、ゴミのポイ捨てを減らすなどの効果も現れていると考える。特に、大人の捨てたゴミを子どもが拾う姿を、地域内に見せていることによる成果だと思われる。

また、今後何をするのにも一番大事なのは地域での繋がりを作ることだと思われる。

その実現の為に、まず、参加ハードルを非常に低く設定している。

結果として、多様な地域の生活者の参加を実現していて、区役所より紹介された生活保護受給者、障害を持っている人たち、ひきこもっている人たち、そういった人々が他者との交流を得るきっかけになったり、社会復帰の一助にもなっている。企業や市民団体、コスプレヤー(「お掃除ヒーロー」)の活動発表の場や、交流、相互理解の場にもなっている。

参加メンバー同士のコミュニケーションを楽しみに来るような人もいるが、その人がリビングラボに繋がっていったりもしていて、地域貢献活動へのきっかけづくりという狙いも実現している。

ボランティアというのは善意の行動だが、「～しなければ」という形の活動では長続きしない。途中参加退出も自由、登録制でもないのだから、参加へのハードルを非常に低く設定し、決められた場所日時にそこに行けば、やっている人たちがいて、やりたければ参加できる、と言う安心感を作り、結果、8人で始めた活動が、160人の参加者を数えるまでになっている。

ゆるいつながりからの関係性を生み出すことによって、清掃活動を通して人の輪を広げていく活動を続けてこられていると思う。それによって、自分たちだけでなく地域内での相互の繋がりを生み、新たなコトを生み出していっている。

6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

ただ単に清掃活動という点で言えば、ゴミが全くなって、活動できなくなるのが一番良い。しかし、「自分たちの街をきれいで格好良い街」にしていくという「活動の目的やねらい」からすれば、ただ単にゴミが減ることがゴールではないと考える。

みんなが集まり、人の繋がりを生み続ける活動の継続性が必要になってくるが、そのためには活動の次世代への受け渡しが肝要となる。

学生、子どもの参加がポイントになるが、子どもたちについては、「地域との関わり」で記述したように、地域や学校・キッズクラブとの関わりで、非常に多くの参加者を得ている。

今年度は特にその中から、「キッズリーダー」を設定し小学校3年生に就任してもらった。

彼はゴミ拾いの楽しさに目覚め、ゴミの分析に強い探究心を発揮し、ゴミ問題を実地で、自ら学んでいる。さらには、そこで学んだことを他の子どもたちにも教えている。大人が上から教えるのではなく、子どもたち自らが、子どもたち同士で社会課題に向き合い、その輪を広げていく姿が見られる。

また、HP や FB 経由で、マイクプラスチックの研究をしている大学生や、学校の課題の研究という形での高校生たちが、活動に参加している。

そういう点でも、各拠点に密着しているリーダーサブリーダーには、若手に就いてもらっていて、現在4人まで拡充している。

今後は、まず、基本となる清掃活動をゆるやかに、しっかり行っていくと同時に、そういった SNS 等のチャンネルを通しての発信を継続して、特に次世代に興味関心を持ってもらい、「かっこいい街作り」に巻き込んで行けたらと思う。

現在では、市内他区でもグリーンバードを、と言う声が上がってきている。実際、杉田1箇所から始めた活動が、5拠点にまで広がっている。今後も無理のない形で拡げていく。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

ゴミの種類によって4種類のゴミ袋を用意しているが、あえて、それぞれ別の人にひとつずつ持ってもらっている。すると、拾ったゴミを入れる際に、どうしても他の人の袋に入れる必要が出てくる。結果、そこで、声を交わすことから始まり、四方山話になり、自然と交流が生まれてくる。そもそもが、地域内での繋がり、人間関係を作るために参加してもらっているため、それを実現するための工夫として、そんな形もとっている。

ゴミ拾いという活動は、「きっかけ作り」の手段であり、また例えば地区によって出てくるゴミの種類に変化がある(ex. 南区は外国系の人たちの出したと思われるゴミの比率が他区に比べて多い)等、地域に目を向けるきっかけ作りにもなる。そして、結果として、「きれいで格好良い街」になれば良いと考えている。

そういう意味では私たちの活動は、むしろ「地域の課題に目を向けてもらう、人の繋がりによって街作りをしていく、そのためのフィールドワーク」であるとも言える。

横浜環境活動賞(2019)

グリーンバード横浜南チーム 応募補足資料



定期清掃の様子です。

19年11月の蒔田公園と18年3月井土ヶ谷地区の写真。

毎回このぐらいの規模で行っていて、子どもたちの参加者の多いこと、彼らも含めてモチベーションの高いことがうかがえると思います。



2019年11月2日。

「11月W杯決勝戦直前!「ごみ袋でトライ!プロジェクト」in横浜」における集合写真です。新横浜駅周辺の清掃活動を行いました。





E-ne!
good for you
MON - THU 12:00~15:00
DJ MITSUMI リポーター 穂積ユタカ

2018年9月 3日 - YES! For You

YES! For You 今回のテーマ 「グリーンバード」

毎週月曜日は「YES! for you」。

環境未来都市・横浜から「素敵生活」を実現するためのヒントを発信していきます。

今日は、NPO法人グリーンバード

横浜南チームリーダー 河原勇輝さん が登場!!



まずは、E-ne!ではお馴染みですが、グリーンバードについて教えてください。
グリーンバードはNPO団体でありまして、きれいな街は人の心もきれいにする
ということをコンセプトに清掃活動を中心に、活動している団体です。

代表の横尾さんにも、来ていただいたりして、お話は伺っているのですが、
今、関東では何チームぐらいあるんですか？

関東では、今現在41チームございます。
世界各国チームが、広がってる感じですね。

広がるという表現がぴったりで、どんどんどんどん新たな拠点というのが、
生まれているというのも特徴ですよね。河原さんがチームリーダーを務めてらっしゃる、
グリーンバード横浜南チームは、いつから活動されてるんですか？

活動は2016年の4月からで、最初は磯子区の杉田からスタートしました。
もともと、自分自身、本業は株式会社太陽住建という建設業の会社を経営しているのですが、
会社の方では地域貢献活動に、結構取り組まさせていただいていたんですが、
ふと休みの日にですね。自分自身何か地域のお役に立てるかなって感じた時に、
たっていないのではと、感じまして。そんな中で、つながりのありました、
川崎チームの田村さんに、紹介を受けまして、そこで様々な参加者の方たちが、
みんなフラットな関係で、楽しく過ごしている姿を見て、これだと感じまして、
自分の地元、横浜でもスタートしたという様な形になります。

磯子で始められたということですけど、今はどれくらい広がってるんですか？

今は、市内4拠点で活動してまして、磯子区の杉田と、磯子区の磯子にあるマンション。
後は横浜の南区の蒔田と、井土ヶ谷地区この4つで、行っています。



様々な方々がいらっしゃるんですが、例えばですね、養護学校の先生とかも



参加者におりまして、その先生は、活動に発達障害を持ってるメンバーとかも連れてきてくれるんです。メンバーを数名連れてきてくれて、そういうものを抱えているという事は、特に話さず、みんなと溶け込んで活動していく中で、しっかり、僕と先生で、前と後で見守るという形で、そういうメンバーにも参加していただいてまして、社会に馴染んでいくきっかけにしてもらったりしています。また、下は4歳の子供から、本当に様々ですね。大人の方まで、皆さん参加してくださってまして、うちのチームは、特に年齢層が幅広いのではないかなと感じています。

年齢層が幅広い理由は？

子どもという所では、地域のキッズクラブとコラボして清掃したり。

キッズクラブって、小学校とかの学童みたいな？

そうですね。そういう活動を通して、子どもが参加してくれますし、この地域の意識の高い町内の方が、参加して下さったりとか、そういった意味では、幅広い年齢層の方々が、参加して下さっていると思っています。

子どもたちは、ゴミを拾うことをどんな風に捉えていますか？

子ども、ぼく多くてですね。4人いるんですけど。

4人のお子さんのお父さんなんですね！

はい。で、うちの子供も、このゴミ拾いに参加させたりしたことがあったりして。うちの子供が参加するときに、僕がちょっと来てみな！っていうんですけど、実は、家では奥さんに「パパ勘弁してくれよ」みたいな話をしてたらしいんです。けど実際来てくれて、最初あんまりゴミ拾いする気なく活動してたんですけど、参加すると、大人の方がものすごく褒めてくれるんです、子どもたちに対して。それでもうその褒めていただける言葉に、やる気になっちゃって、一生懸命ゴミ拾いをやってくれたり。そういう意味では、子どもたちと、大人との交流がいま、すごく少なくなってるんじゃないかなって。清掃活動通してですね。その様な形で、大人との交流ができるというのは、良いことじゃないかなという風に感じています。

お子さんたちに、参加してもらうことで、気づくことってありますか？

ものすごくあります。それこそ、本当に子供はもう、めちゃめちゃ元気なんで、ほんとに元気をもらうということもありますし、特にですね。タバコの吸い殻をよく拾ってくれるんですね。そういったこの、子供たちが拾ってくれる吸い殻とかを見ていると、それこそ大人の方。ポイ捨てしてしまっている大人たちも、ポイ捨てる事は、恥ずかしいことだ。みたいなことを、感じてもらえるきっかけに



E-ne! ～good for you～ - Fm yokohama 84.7

おぼんじらないかなと思います。ゴミ拾って、人の心理が凄く見えるなあと思って、ポイ捨てることいけないことだとわかって捨てるから、やっぱり見えない所にするんですね。



あ、そうか！なんとも思っていないんじゃないかと、いけないって理解してるから、隠すように。
そうなんですよ。隠すと。そういうこともありますし、また、こういう活動を通して、最近感じるのは、この活動に参加する理由で、堂々と活動できるから、町内で自分だけが一人でゴミ拾いしてるのも、恥ずかしくなったりして。みんなで同じゼッケン着るからこそ、活動に参加しやすいとか、ゴミ拾いしやすいとかで、参加してくれてる方もいたりして。そういった意味では、すごく面白いなど。

いま、ゼッケンという風に河原さんおっしゃったんですけど、グリーンバードというお名前通りの、まみどりのグリーンなあのゼッケン。それを着た皆さんが集まると、まるで木がそこにあるように、街が鮮やかに見えますよね。

そうですね。みんな同じゼッケン着て、で、それこそ清掃するときに、グリーンバードって書いてある旗を掲げて、清掃するんですけど、そういう清掃団体がいるんだということも、ポイ捨てしにくい街づくりにつながればいいなと思って活動しています。

...と、お話していただきました。

磯子区版 エリアトップへ

掲載号：2016年5月19日号

「横浜南チーム」の誤記

グリーンバード磯子チームの代表として、ごみ拾いを通じた街づくりに取り
組む

河原 勇輝さん

森在住 31歳

掲載号：2016年5月19日号

愛する地元へ恩返しを

〇…「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに、街のごみ拾い活動に取り組む“グリーンバード”。4月に磯子チームを立ち上げ、毎月第3土曜日を活動日としてスタートした。「『知り合いもできて、楽しくごみ拾いができた』と言ってもらえて嬉しかった」と安堵の表情。「慣れてきたら、ごみを拾うだけでなく磯子の街についてもみんなと考えてみたい」。活動が生んだ縁に、街づくりへの期待も込める。



〇…生まれてからずっと森で暮らし、自身の経営する会社も上中里町に。「今も遊ぶのは森中時代の仲間」と楽しそうに話す姿からは、地元への愛が溢れる。「愛着のある地元へ恩返しをしたい」と地域との関わり方を探る中で出会ったのが、知人が川崎駅で取り組むグリーンバード。ごみ拾いで知り合った人同士が街への思いを語る姿に「これだ」と閃く。「活動を続ける中で参加者の胸に街への愛着が生まれたり、一緒に活動することで仲間が増えたり。これからは楽しみ」と胸を弾ませる。

〇…建設業界で職人として修業後、経験を活かして24歳でリフォーム等を扱う建設会社（株）太陽住建を設立。「飛び込み営業など仕事を取るために相当苦労した」と苦笑も、地域での地道な営業と丁寧な工事がいつしか顧客が顧客を呼ぶ好循環に。「社員と協力会社の方のおかげ」と笑顔で話し「こ

れからも一丸となってお客様に感動を与えられる仕事をしたい」と語る。

○…両親や兄弟、妻と子どもたちの12人と賑やかに暮らす。家族と過ごす時間が最大の楽しみで、休日は息子たちのサッカーの応援や、長女とのままごとを楽しむ。昨年、結婚以来挙げられていなかった結婚式が地元の仲間たちのサプライズにより実現。「子どもたちまで綺麗に着飾ってくれて感動した」と目を潤ませる。今後も力を注ぐのは「愛すべき地元への恩返し」。仕事もグリーンボードも地域のために取り組んでいく。